

「男女共同参画の今」。第4回は、女性が多く活躍している保育園の男性保育士について取材をしました。市立保育園では平成14年から採用し、現在6人の男性(全保育士117人中5%)が活躍しています。追浜保育園、上町保育園、児童相談所に勤める5人の保育士さんにお集まりいただき、座談会を開きました。

Q. 保育士になったきっかけは?

芦澤 健さん (追浜保育園・平成14年～)
7歳違いの弟がいたので、小さい頃から面倒をみていました。進学の際に男性が通える保育士になるための短期大学があることを知ったので、受験しました(市で初の男性保育士です)。

岐部 和彦さん (追浜保育園・平成15年～)
姉と祖母が看護師で影響を受け、福祉大学へ進学しました。保育の実習が想像していたより楽しかったので、保育士の道を選びました。

原田 賢一さん (児童相談所・平成15年～)
心理学を学びたいと思い、大学へ進学しました。在学中に保育についても学び、実習で子どもたちと遊ぶ楽しさを知り、保育士を選びました。

平本 正さん (上町保育園・平成17年～)
大学に進学後、保育の専門学校へ進学しました。就職活動で悩みましたが、保育士の男性がいることを聞き、進路を決めました。

砂子 央行さん (上町保育園・平成18年～)
どんな仕事をやりたいか考えていた時に、ハイランド保育園でボランティアの話があり、やってみようかと働いたのがきっかけです。その後自力で勉強し、国家試験に合格して保育士になりました。

Q.大切にしていることは?

- 保護者との信頼関係です。よく子どもを観察し、様子を保護者に伝えていきます。
- まず現状の仕事をしっかりこなすこと。子どもたちが楽しんで通ってくれるのが一番だと思います。女性の保育士と、カバーし合えたらと思います。
- 男性だからこその保育を考え、保護者の相談相手になれるようにしたい。その道のプロになりたい。
- 子どもたちの発達を通じ、保育園と保護者のパイプ役になりたい。



芦澤さん



平本さん



砂子さん

Q. どんなどきに嬉しかったですか?

- 一つの行事をやるたびに子どもの成長を実感できたとき。
- 自分にも娘が生まれて、保護者と共感できたとき。
- 卒園の時に子どもたちから手紙をもらったとき。
- 街で卒園児が声をかけてくれたとき。
- 「家で先生の話をしていました」と保護者から聞いたとき。
- 家庭環境が厳しく、なかなか人を受け入れなかった子が、安定して明るくなったとき。
- 一生懸命お手紙を書いたり折り紙を折ったりして、手渡してくれたとき。

男女共同参画

NOW
— 今 —

輝いている保育士さん
「シリーズ最終版」

おやつは手づくり
今日は黒糖まんじゅう

保護児童に野球を教える
原田さん

Q. 保育士になって困ったことは?

- (皆さん一緒に) 男性のトイレや更衣室が無かったこと。腰痛。

*メッセージ

ベテランの先生が多いので、質の高い保育が展開され、若手の保育士も育てられています。ぜひ一緒に働きませんか!!

上司にあたる園長先生にお話を伺いました



安島園長先生(写真左)と
鎗田副園長先生

追浜保育園

2人とも表情が良く、職場が活気付きます。男性保育士が採用されて10年以上経ちますので、違和感はありません。男性としての特性を生かし、その目で見たり感じたりした意見をどんどん発言するように伝えています。上司・部下の垣根を越えてチームの一員として活躍してほしいです。今度は若い保育士を育てる立場になってゆくの、頑張してほしい、応援しています!



羽賀園長先生(写真左)と
橋本副園長先生

上町保育園

私が平成21年に園長として赴任した時には、既に男性の保育士がおりました。以前から男女どちらの保育士もいて当然だと思っておりまして、違和感はありませんでした。家庭環境の変化に伴い、男性の目も必要であると思っています。特に3歳～5歳の幼児には、ダイナミックに遊んでくれるので人気があります。

「男女共同参画～NOW～」を始めたきっかけは、駅のホームで女性運転手の方をお見かけし、それが印象に残っていたからでした。そして、男女共同参画社会への扉を開けた方々にお会いしてみたくなりました。性別を問わず共通していることは、ご自身で選んだ職業に誇りを持ち、前向きに挑戦し続けているということです。紙面では伝えきれないところもあると思いますが、ご紹介した方々に共感され、男女共同参画に興味を持っていただくきっかけとなれば幸いです。男性保育士の方は、お父さんやお兄さんになったり、お友達になったり、子どもたちに溶け込んでいました。男女共同参画は、さまざまな職場で根付いてきています。

起業してみたい!と思ったことはありませんか?

起業は誰でもできますか???

「趣味を活かして何かをやってみたい」「資格は持っているけど活用の仕方が分からない」そんな思いが頭をよぎった事はありませんか? 「私はずっとこのままでいいのかな…」と自分を見つめ直したことがあるのではないのでしょうか。



今回、夢を形にするための働き方の一つ「起業」に注目しました。まずはどんなものかを知ることからはじめようと、県が行っている起業を目指す女性のための『女性先輩起業家相談』と『起業のためのミニサロン』へ行ってみました。

- お料理、手芸、フラワーアレンジメントなど、自宅でお稽古ビジネスをやりたい。
- 英語が得意! 塾を開けないかな～。
- 整理整頓大好き。収納アドバイザーとして片付けの手伝いをしてみたい。
- 福祉の仕事でニーズが高みたい。資格をいかして事業所を立ちあげたい。
- 保育士の資格をいかして、子どもを預かりたい。
- 家事なら得意! 家事代行サービスで忙しいママをサポートしてみたい。
- お店を持ってみたい。

起業相談会・ミニサロン

起業相談会では、「かながわ女性起業家クラブ」の先輩起業家が、ご自身の体験を語りながら、個別にアドバイスしてくれました。

「お金を頂くということは責任が発生すること」を強調され、起業を志すのであれば、危険を回避するための準備を十分にする(保険に入るなど)が必要であることをお話されました。

ミニサロン(交流会)では、参加者6人と先輩起業家が意見交流。まだ小さなお子さんがいる人、今、本当に起業が必要かどうか考えて」と話す場面もありました。十分に練って、備えて、待つことも大切なのだと、起業の厳しさを率直に伝えていました。

相談に来るのは、事業計画書を持って来る人、ほんやり夢を抱く人とさまざまです。自分は何を求めているかを事前に形にしてからの方が、効率良く相談できます。

まずは、何をやりたいか、やらねばならないか、自分の強み、弱みを徹底的に洗い出し、分析する…。公的機関の相談を活用したり、インターネットや図書館で調べたり、起業講座を受けたりと、積極的に準備をする必要があります。

「気持ちがあるなら、とにかく動いてみてください!!」自分の引き出しを開けて、起業計画を立ててみましょう」とのメッセージをいただきました。

ポイント1 起業とは

起業という大きな事業を考えがちですが、雇われない働き方はすべて起業といってもよい! いろいろなタイプがあります。例えば…1人、仲間と、在宅で、週末だけ など

ポイント2 起業するのに必要なこと

起業は、気持ちだけではできません。人脈、キャリア、資金が必要です。『自分には何もない』と思っても、よく考えてみると意外とあるものです。

●人脈
自分の将来について相談できる人、落ち込んだ時に話を聞いてくれる友人、金銭的に支えてくれる人(夫・親など)、気晴らしに出かけるママ友達なども人脈です。

●キャリア
資格や技術を持っていれば強みです! もし何も考えつかないなら、天職探しをしてみませんか? それぞれ3つ～5つ書き出してみましょう。共通している項目が天職です。

●資金
自分のレベル、自分の経済学でよいとのこと。売り上げがなくても3ヵ月～6ヵ月は続けられる資金を準備することが大事です。毎月必要な経費と起業当初など一時的に必要な経費の2種類があります。

あれこれ考えていると頭でっかちになり、空回りしがちですが、何から始めればよいかのヒントをいただき、考えることができてすっきりしました。自分サイズの起業は、誰にでもチャンスはあるのだと、一歩踏み込む勇気が出ました。皆さんも講座や相談へ、足を運んでみてはいかがでしょうか。

参考資料: 『あなたの起業応援手帳 ~自分サイズの仕事のために~』 (かながわ女性起業家クラブ 発行)

